

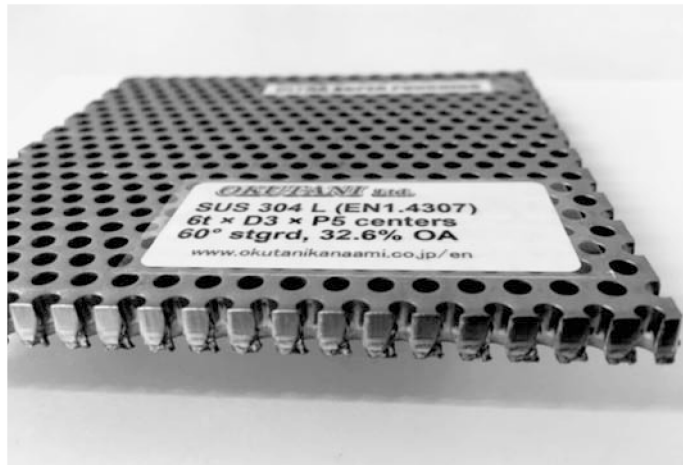
# プレスで板厚半分の直径穴

## ステンレス鋼打ち抜き

【神戸】奥谷金網製作所（神戸市

中央区、奥谷智彦社長、078・351・2531）は、ステンレス鋼の板厚の半分に当たる直径の穴をプレス加工できるパンチングメタル（打ち抜き金網）製造技術を開発した。板厚より小さい直径の穴のプレス加工は難易度が高く、従来は板厚の60～70%が限界とされてきた。製薬や食品、発電プラントなどに使われる、粉体や流体のフィルター板の厚みを増すことができ、耐久性向上につながる。

### 奥谷金網製作所



「超スーパーパンチング」技術で加工したパンチングメタル（板厚6ミリのステンレス鋼に直径3ミリの穴）

奥谷金網製作所が開発した打ち抜き金網の技術は「超スーパーパンチング」。ステンレス鋼をパンチングプレスで打ち抜く際の強度向上や金型設計の工

夫などにより、小さい直径の穴を開けられるようにした。200ミリの板厚2ミリのステンレス鋼に直径1ミリの穴を開ける試作加工に成功を5ミリの間隔で開ける縮に向け試作を重ね

## 食品・発電プラント フィルター耐久性向上

2019年から、板厚2ミリの製品は堺工場（堺市美原区）で、同6ミリの製品は明石工場（神戸市西區）で、それぞれ製造を始める。製薬、食品、発電プラント向けフィルターなど耐久性、耐久性の大幅な向上が求められる用途への普及を目指す。板厚より小さい穴のプレス加工は難しく、切削加工やレーザー加工で一つひとつ穴を開ける方法は時間がかかる課題があった。同社は09年、業界に先駆けて板厚の60～70%の直径の穴を打ち抜く「スーパーパンチング」技術を開発した。今回、さらに小さい穴を打ち抜く技術をアピールし、同業他社と差別化する。